

ヒトヨタケ *Coprinopsis atramentaria* (Bull.) Redhead, Vilgalys & Moncalvo

担子菌門 *Basidiomycota* ハラタケ亜門 *Agaricomycotina* ハラタケ綱 *Agaricomycetes* ハラタケ目 *Agaricales*
ナヨタケ科 *Psathyrellaceae* ヒメヒトヨタケ属 *Coprinopsis*

供試標本

茅野市八ヶ岳総合博物館標本菌類 F-00242, 2017年5月20日, 長野県茅野市豊平(尖石青少年の森), 藤森政明採集; F-00629, 2019年5月18日, 同所, 上原裕雄採集

肉眼的特徴

図1

かさは開けば径4.0–8.0 cmで、幼時は卵形、後に釣り鐘型から円錐形となる。表面は若い時は白色、成熟すると灰色となり、鱗片状で中央部から周縁部に向かって放射状に浅くて粗いしわがあり、後に平滑となり溝線が現れる。吸水性や粘性はない。肉は薄く味は温和で臭いはない。ひだはほぼ離生で小ひだがあり密、若い時は白色から濃灰色で後に紫褐色から黒色となり液化する。稜は黒く鋸歯状ではない。柄は8.0–12.0 cm × 1.0–1.5 cm、円柱形で表面は平滑、白色から淡いクリーム色で下方に不完全なつばの名残がある。粘性はなく内部は中空となる。

顕微鏡的特徴

熱乾燥標本を用いてひだとかさ表皮の切片を3% KOHで封入し、コンゴレッドを追加してプレパラートを作成し観察した。かさ表皮の色彩はコンゴレッドを追加する前に確認した。胞子の計測は標本F-00242を用いて行い、それ以外の観察は全て標本F-00629を用いた。

かさ表皮の最上層は幅2.6–6.9 μm、平均4.1 μm (n=22)の細い細胞からなり、平行からやや錯綜し170 μm前後の層を形成する。菌糸にはクランプがあり褐色の色素顆粒がある。その下の層は幅13.6–23.0 μm、平均18.4 μm (n=20)のやや太い細胞からなり、平行菌糸で400 μm前後の層を形成する(図2)。縁シスチジアおよび側シスチジアは観察されなかった。担子器は棍棒状で(16.5–)18.8–23.4(–26.5) × (7.8–)8.4–10.2(–11.1) μm (n=52)、4胞子性で基部にクランプはない(図3)。担子胞子は(7.5–)8.5–9.9(–10.5) × (4.3–)4.5–5.1(–5.4) μm (n=50)、縦横比は(1.54–)1.74–2.08(–2.32)、縦横比平均1.91で楕円形から長楕円形、褐色で厚壁、表面は平滑で発芽孔がある(図4)。

生態的特徴 広葉樹の腐木や落葉が堆積する公園内で東生から群生する。

ノート

かさ表皮は文献1, 2, 5では平行菌糸とされているが、本標本では平行からやや錯綜する菌糸被でやや異なる。縁および側シスチジアは文献1, 5に記載があるが文献2, 3, 4に記載はなく、本標本では認められなかった。担子器は文献5で22–32 μmと本標本よりも長くやや異なる。担子胞子の縦横比は文献5では1.5–1.8と本標本よりもやや小さい。以上のように本標本の顕微鏡的特徴は、これまでの記載と違いも認められるが、肉眼的特徴や生態はよく一致することから暫定的に上記学名の種と同定した。

参考標本 F-00455, 2019年5月12日, 長野県茅野市豊平(尖石青少年の森), 市川浩久採集

文献

- 1 青木実(2008)日本きのこ図版, 第3巻, 日本きのこ同好会2, 神戸, pp10–13
- 2 池田良幸(2013)新版北陸のきのこ図鑑, 橋本確文堂, 石川, pp86–87
- 3 今関六也・本郷次雄(1987)原色日本新菌類図鑑(I). 保育社, 大阪, p165
- 4 川村清一(1954)原色日本菌類図鑑, 第五巻, 風間書房, 東京, pp555–556
- 5 Breitenbach J, Kränzlin F, (1995) Fungi of Switzerland vol 4. Agarics 2nd part. Edition Mykologia, Lucerne, pp226–227

担当 荒野民雄、岩波博文、齊藤智子



図1 F-00629 野外での発生状況

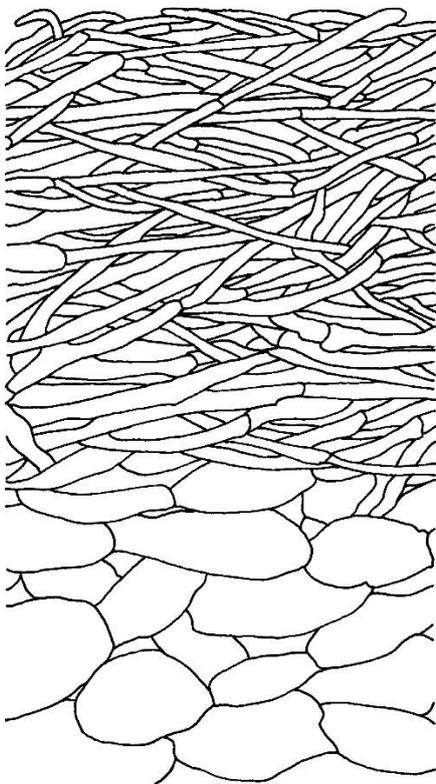


図2 かさ表皮 50 μm

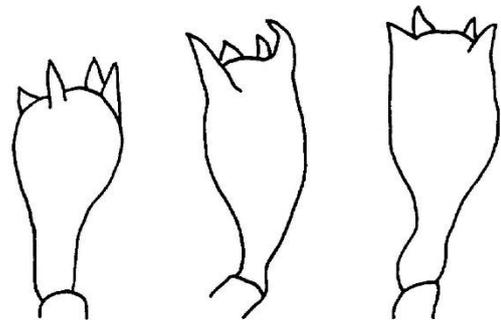


図3 担子器 20 μm

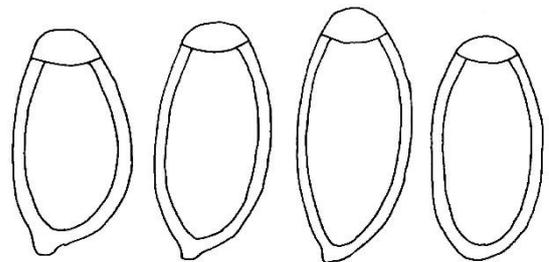


図4 担子孢子 10 μm